

活動報告書

報告者氏名: 石塚将大

所属: 焼津市立大富小学校

記録日: H27年 2月 27日

【対象児の情報】

○学年 小学校5年

○障害名 読み書き障がい (ディスレクシア, ディスグラフィア)

○障害と困難の内容

- ・文を読んだり、板書を書き写したりするのに時間がかかる。
- ・自分で文を読んでいると音に変換することに力を使ってしまうので、意味を理解したり、考えたりすることが難しい。
- ・読む、書く等の学習に困難さを抱えている。
- ・初めての活動や場面では、一斉の指示だけでは、理解が難しいことがある。
- ・吃音があり、大勢の前など緊張する場面では、スムーズに話せないことがある。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・VOD (デジ教科書) を使用して、文章の読み取りをサポートし、5年生の学習の基礎・基本の定着を図る。
- ・教師の指示や説明を録音し、繰り返し再生できるアプリを使用して、授業の中で活用していく。
- ・テスト問題に音声をつけることで、自力解決ができるようにする。
- ・板書をノートへ写す時には、iPad で写真を撮り手元で視写できるようにする。

○実施期間

H26年5月～H27年2月

○実施者

石塚将大

○実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・大変前向きで一生懸命。苦手なことにも挑戦し、努力してできるようになりたいという思いを強くもっている。
- ・板書を写すことに時間がかかるが、最後までやり切りたいという気持ちが強く、時間内に終わらないことが多いになってしまう。
- ・みんなの前で話すと緊張からかうまく話せないことがあるが、積極的に発表したり代表に立候補したりする。

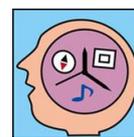
○活動の具体的内容

- ・視写の負担を減らし考える時間を確保する。 → 「カメラ」



- ①「黒板⇒ノート」は負担が大きく期間もかかるが、「手元⇒ノート」であれば書く困難さも軽減されるので、板書を撮影し手元で拡大しながらノートへ書き写す。
- ②理科の実験を動画撮影し、実験の時間 (席を離れる場面) と考察の時間 (席に座る場面) をはっきり分け、動画を見返しながら考察できる時間を十分に確保する。
- ③翌日の予定は板書されたものを撮影する。

- ・録音機能を利用し、自分からやりたいという意欲が「自分でできる」という行動にうつしやすいようにする。 → 「iBooks」「MemoryAid」



- ①テストの時間に問題を教師が読み上げ、同時に録音して何度も聞き返すことができるようにする。
- ②問題を選択すると読み上げてくれる機能を利用して、自分だけの力で問題を解いていく。
- ③発表原稿を事前に録音し、みんなの前で発表する時に再生して発表する。

- ・読み取りをサポートし、基礎基本の定着をはかる。 → 「Voice of Daisy」



- ①家庭学習の音読の代わりに、デイジー教科書の読み上げを何度も繰り返し聞く。
- ②デジタル教科書を使用して、手元の教科書と板書で視点の移動をなくす。

○対象児の事後の変化

- ・視写の負担を減らし考える時間を確保する。

- ①「黒板⇒ノート」は負担が大きく期間もかかるが、「手元⇒ノート」であれば書く困難さも軽減されるので、板書を撮影し手元で拡大しながらノートへ書き写す。

書き写す時間と負担が軽減され、考える時間や相談する時間が増えた。自分の考えをもてることが増え、学習に対してより意欲的になった。発表するなど、自分の考えを表現することも増えてきた。

しかし、こちらから促した時には上記のような表れがあるのだが、自分から撮影し書き写そうとはせず、時間がかかっても板書を直接ノートへ写している。

- ②理科の実験を動画撮影し見返すことで、実験と考察の時間を分け、座席で書く時間を十分に確保する。

「流れる水のはたらき」「もののとけ方」の2単元で実践を行った。実験を「観察する」、実験から「考える」、結果や考えを「書く」という3つのことを短い時間で行わなければいけなかったところが、何度も観察でき、考えたり書いたりすることができた。そのため、より多くの気付きや考えをもつことができた。

さらに、撮影した実験の様子を何度も見返す



ことができるので、実験の様子を根拠に話し合うことができ、他の児童にとっても効果的な学習になった。

③翌日の予定は板書されたものを撮影する。

給食後に予定を書いていたが、昼休みまでかかってしまうことが多かった。撮影することで昼休みまでかかることがなくなり、委員会の時間や友達と遊ぶ時間を確保することができた。



・録音機能を利用し、自分の力で自分からやれる場面を増やす。

①テストの時間に問題を教師が読み上げ、同時に録音して何度も聞き返すことができるようにする。

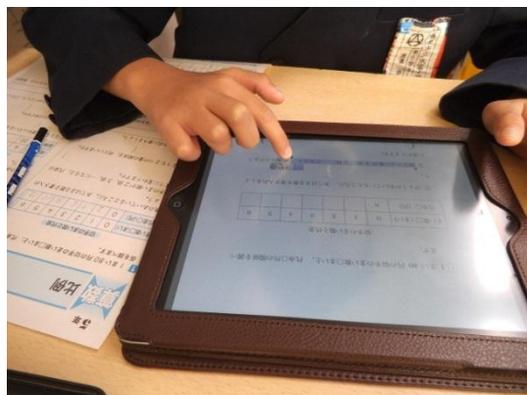
「MemoryAid」を利用して教師の読み上げを録音し、自由に何度も聞き直すことができるようにした。しかし、何枚かのテストで繰り返し行ったが、本児は一度も聞き直すことがなく、録音の効果は表れなかった。本児も「一度聞けばわかる。」と言っていたので、別の方法を考えることにした。

②問題を選択すると読み上げてくれる機能を利用して、自分だけの力で問題を解いていく。

テスト問題を「Word」で打ち直し、「iBooks」アプリで、選択した部分の読み上げを聞きながら、自分のペースでテストを進めていくことができた。操作もすぐに慣れ、とてもやりやすそうであった。同じ単元のプリントと比べ、短時間で解け、正答率もあがった。

※この実践の後、画像に直接音声がつけられる手軽な方法があることがわかった。

→「Book Creator」



③発表原稿を事前に録音し、みんなの前で発表する時に再生して発表する。

総合的な学習の時間に調べたことをポスターにまとめ、発表する学習を行った。発表原稿を作り一生懸命練習を繰り返したが、みんなの前に出ると、どうしてもうまく話せないことがあった。また、読むことに集中してしまうことで、ポスターを指し示しながら発表することは、本児にとっては大変難しいことであるように思われた。そこで、「MemoryAid」を利用し、家で発表を録音して再生しながら発表した。ポスターの関係ある写真や説明している部分を指し示すことで、他の子にもわかりやすい発表になり、満足感が得られたように思う。



